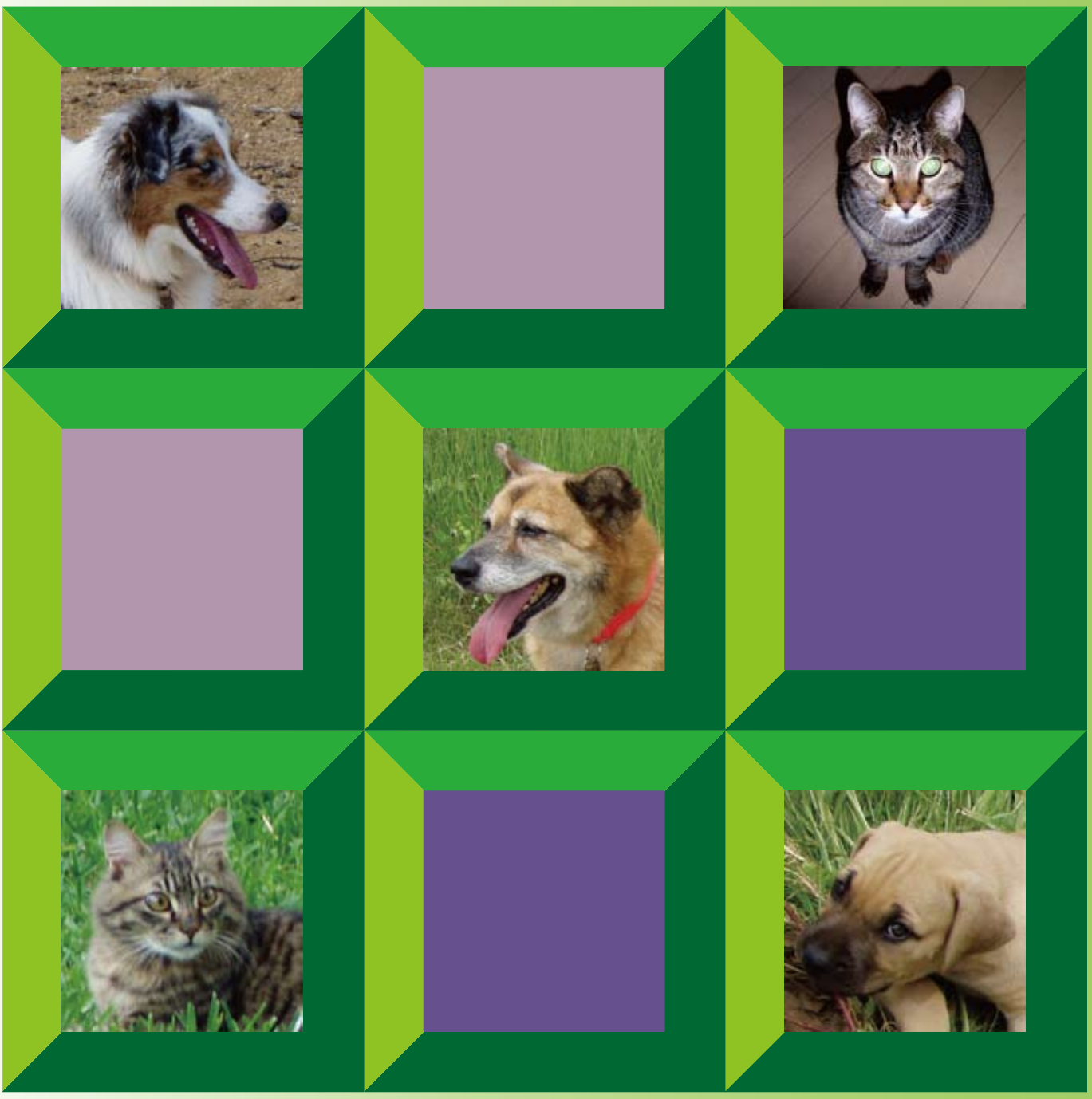
飼い主のための
ペットフード・ガイドライン

～犬・猫の健康を守るために～



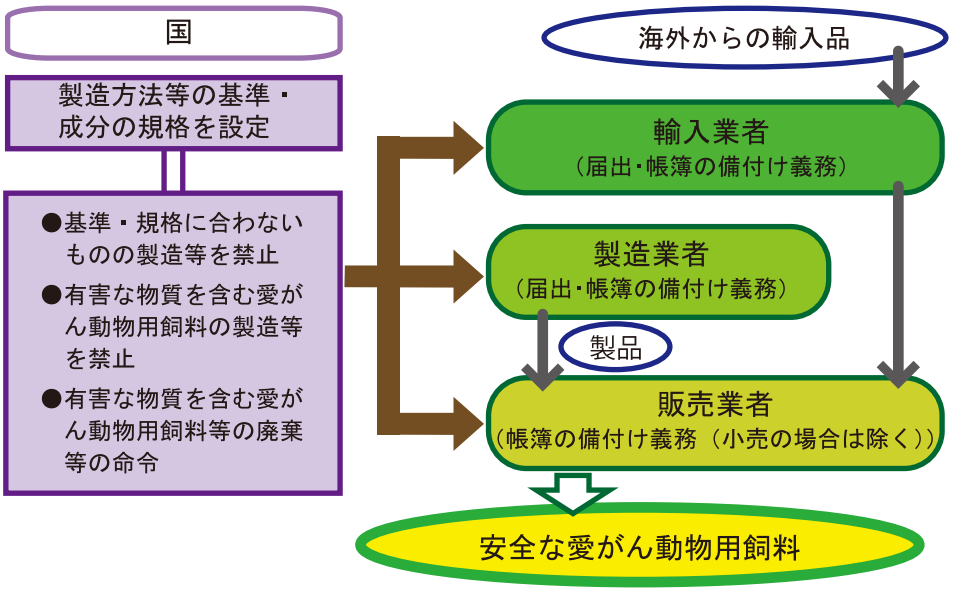
環境省

はじめに

2008 年６月、ペットの健康を保護し、動物の愛護に寄与するために、ペットフードを規制する「愛がん動物用飼料の安全性を確保する法律（ペットフード安全法）」が成立し、2009 年６月１日から施行されました。

この法律は、ペットフードの製造の方法や表示についての規格、成分についての規格を定め、これに合わないペットフードの製造、輸入又は販売を禁止するものです。ペットフードの製造業者、輸入業者及び販売業者は、定められた基準や規格を守る責任が生じます。

ペットフード安全法の概要



なお、この法律の詳細については、
環境省ホームページ（http://www.env.go.jp/nature/dobutsu/aigo/）または、
農林水産省ホームページ（http://www.maff.go.jp/j/syouan/tikusui/petfood/）をご覧下さい。

しかしながら、ペットフード安全法の規制だけで、食べ物によるペットの健康被害を防げるわけではありません。ペットの健康と安全を守るためには、フードを与える飼い主自身が、ペットの生態や必要な栄養素、食べ物などについて理解し、適切な給餌を行うことが大切です。飼い主の責任は、「動物の愛護及び管理に関する法律（動物愛護管理法）」においても、次のように規定されています。

動物の飼い主の責任（動物愛護管理法第７条）
- 動物の種類や習性などに応じて適正に飼い、動物の健康と安全を守るよう努めること。
- 動物が人に危害を加えたり迷惑を及ぼすことが無いよう努めること。
- 感染症などの病気の知識を持って、予防に注意するよう努めること。
- 自分が所有していることを明らかにするために、標識をつけるよう努めること。

このガイドラインは、犬と猫を対象として、ペットフードの選び方や与え方、日頃の健康管理などについて紹介し、飼い主の方々の理解と適切な飼養を支援することを目的として作成しました。

目　次

1　最初に知っておきたいこと＜人間・犬・猫の違い＞　4

1-1　必要な栄養素の違い　4

1-2　味覚の違い　5

1-3　フードの食べ方の違いと与え方　6

1-4　好きな食材・嫌いな食材　7

1-5　避けたい食材、注意が必要な食材　8

2　市販のペットフードについて　10

2-1　市販フードの種類と選び方　10

2-2　表示の見方　12

3　手作りフードについて　14

3-1　利点と注意点　14

3-2　生肉や生魚を与える場合の注意点　14

4　フードの保存方法　15

5　体調管理について　16

5-1　痩せすぎ、太りすぎにしないために　16

5-2　日頃の体調管理　18

5-3　こんなことにも気をつけましょう　19

6　Q　&　A　20

参考資料　23

監　修：阿部又信（ヤマザキ動物看護短期大学　教授）
大木富雄（日本ペット栄養学会　常任理事）
大島誠之助（アニマテック　オオシマ　代表）
大野和彦（ペットフード公正取引協議会　事務局長）
藤井立哉（ペットフード工業会　事務局長）
本好茂一（日本ペット栄養学会　会長）

協　力：ペットフード工業会
ペットフード公正取引協議会
日本ペット栄養学会

1

最初に知っておきたいこと＜人間・犬・猫の違い＞

1-1 必要な栄養素の違い

●私たち人間と同じように、犬や猫は、脂肪、たん白質、炭水化物*、ミネラル、ビタミンを食べ物から摂り入れなければ健康に生きることができません。
●しかし、人間と犬と猫では、必要な栄養素の割合に大きな違いがあります。

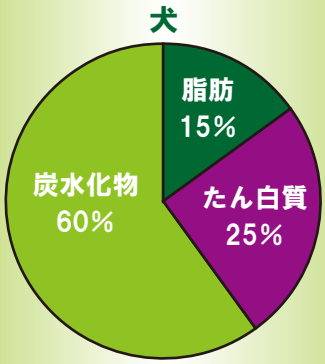
＊脂肪、たん白質、炭水化物を三大栄養素と呼びます。

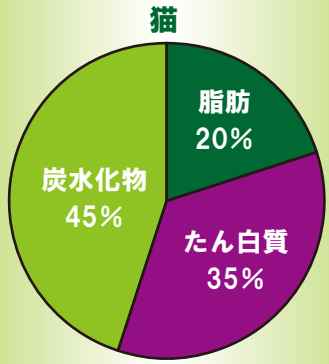
犬は雑食

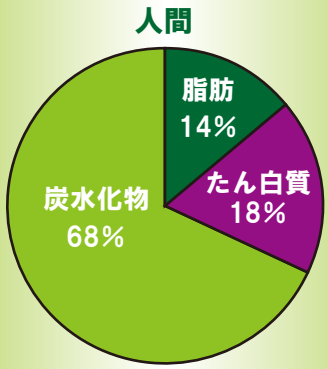
犬は、長い間人間と共同生活していく中で雑食性が進み、たん白質の必要量は人間より多いものの、最適な三大栄養素の割合は人間と全般的によく似ています。

猫は肉食

猫は、人間と暮らし続けていても肉食性を保ち続けたため、人間や犬に比べてたん白質が多く必要です。また、人間や犬では、生理的に必要なタウリンや、ビタミンAなどを体内で作ることができるのに対して、猫では作ることができないため、タウリンを十分に含んだフードを与える必要があります。







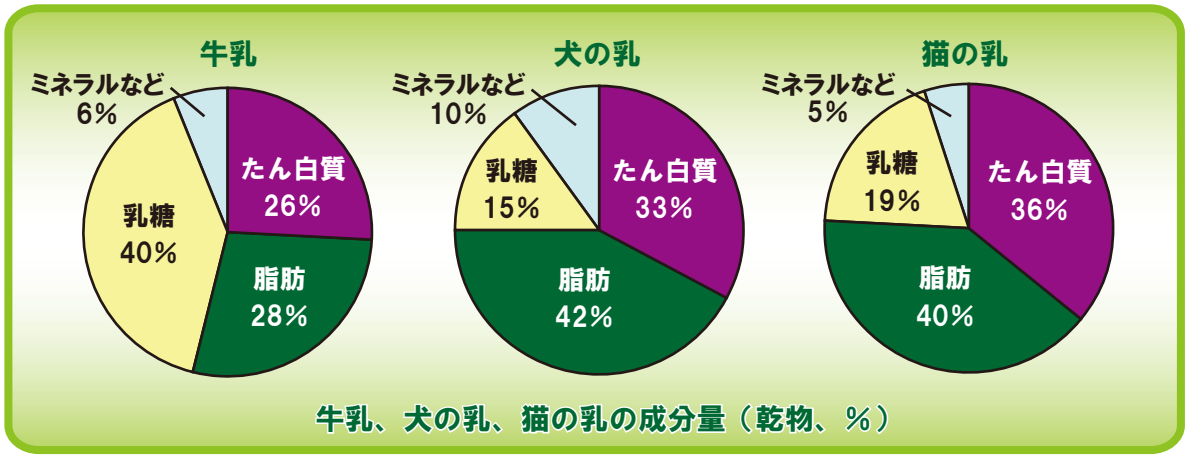
犬、猫、人間の平均的な食事に含まれる三大栄養素

memo　猫のタウリン欠乏症

タウリンが不足すると、猫では、眼の障害（網膜萎縮）や、心臓の疾患（拡張型心筋症）などを引き起こすことがあります。手作りフードを利用する場合などでは注意が必要です。タウリンは、魚介類や動物の内臓などに多く含まれています。

乳の成分

犬や猫の食餌が、私たち人間と異なっていることは、乳の成分などにもあらわれています。牛乳は、私たちにとってたん白質やミネラルを多く含む良質な食品の一つですが、犬や猫の乳は牛乳に比べてたん白質や脂肪の量がより多く、乳糖などの炭水化物が少ないのが特徴です。このため、子犬や子猫に母乳の代わりに牛乳を与えると、エネルギー（カロリー）やたん白質が不足して、健全に成長できない場合があります。子犬や子猫には専用のミルクを与えましょう。



牛乳、犬の乳、猫の乳の成分量（乾物、%）

1-2 味覚の違い

●犬・猫は人間以上に塩分の摂りすぎに注意。犬は甘い物にも注意。

一般的に、犬や猫が1日に摂る食塩の量は人間の 1/3 程度でよいといわれています。このため、人間が普通に食べている惣菜やハム、ソーセージなどを与えてしまうと、知らない間に、塩分の摂取量が過剰となり、心臓や腎臓に負担をかけてしまうことになります。また、猫は食べ物の甘みを感じることが出来ませんが、犬は甘みのある食べ物が大好きなため、与えすぎると肥満の原因になります。

memo

塩分を多く含む食品の例

人間が 1 日に食べる量を基にした摂取塩分量

★～ 1.0g、★★1.1 ～ 2.0g、★★★2.1 ～ 3.0g、★★★★3.1 ～ 4.0g、★★★★★4.1g以上

パン（★）

ロースハム（★★）

ウインナー（★★）

さつま揚げ（★★★）

チーズ（★）

ベーコン（★★）

味噌汁（★★）

しらす干し（★★★）

ハンペン（★★）

塩シャケ（★★★★★）

1-3 フードの食べ方の違いと与え方

●人間は1日3食。 犬・猫は1日2～4食。

犬の場合

犬は、 1回で1日分の量のフードを食べることが出来るほど大きい胃を持っていますが、 1日分のフードを1回で与えるというやり方はあまり好ましくありません。 与える回数が1日1回だけの場合は、 慌てて飲み込んでのどに詰まらせたり、 肥満になりやすいともいわれることから、 成犬では1日分を2回に分けて与えましょう。 また、 子犬の場合は、 1回に食べられる量が少ないため、 4回程度に分けて与えましょう。

犬は、 目の前にある食べ物をお腹一杯になるまで食べてしまいます。 市販のペットフードの場合には、 パッケージに表示してある給与量の目安を参考にして、 犬の体重や健康状態にあわせて与える量を調節してください。 また、 新鮮な水を常にフードのそばに置いておきましょう。

猫の場合

猫は、 昼夜を問わずに頻繁に少量ずつ食べる習性があるため、 1日分を2～3回に分けて与えるか、 腐敗の危険性が低いドライフードを置き餌として使って、 いつでも食べることが出来るようにしてもよいでしょう。 ただし、 置き餌の場合でも、 常に清潔で新鮮な状態にし、 衛生を保つことが重要です。

水分の多いウエットフードや手づくりのフードなどは、 そのまま放置しておくと腐りやすいため、 食べ残しはそのままにしないで、 すぐ片付けましょう。

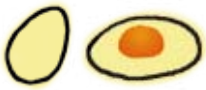
1-4 好きな食材・嫌いな食材

犬が好きな食材

鶏肉、 牛肉、 豚肉、 羊肉（赤身、 内臓、 骨）

乳製品（チーズ、 ミルク、 ヨーグルト等）

卵



魚肉

果物（りんご、 なし等）

甘い食べ物や塩辛いもの

焼いたものや蒸したもの（加工方法）

犬が嫌いな食材

柑橘類

ニオイが強い葉物野菜

香辛料

お酢など酸味の強いもの

猫が好きな食材

魚肉

かつおぶし

海苔

鶏肉、牛肉、豚肉、羊肉（赤身、内臓、骨）

柔らかいものや形状の小さなもの

猫が嫌いな食材

柑橘類

香辛料

お酢など酸味の強いもの

☆食べる、 食べないには、 食材だけでなく、 水分の含有量、 加熱、 調理方法、 口当たりなど様々な要因が関係します。

1-5 避けたい食材、注意が必要な食材

●人間の食べ物でも、犬や猫には害を及ぼす場合があります。 タマネギやチョコレートなどを犬・猫に食べさせないよう注意が必要です。

与えることは避けたいもの

タマネギ

犬や猫に有害なアリルプロピルジスルファイドという成分が含まれていて、大量に食べさせると赤血球が破壊され、血尿や下痢、嘔吐、 発熱などをおこすおそれがあります。 加熱してもこの成分は分解されず、 ハンバーグやカレーなどのタマネギが含まれる加工食品も要注意です。 また、タマネギそのものではなくても、エキスがしみ出た味噌汁やすきやきの煮汁などにも注意する必要があります。（同様の成分は、 長ネギ、 ニラ、 ニンニクなどにも含まれています。）

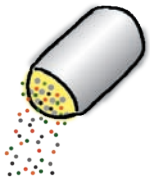
ブドウ・干しブドウ

犬や猫にとって腎不全の原因になります。 特に、 ブドウの皮は与えてはいけません。

キシリトール入りのガムなど

キシリトールは、 虫歯予防などに有効として人間用のガムなどのお菓子に含まれていますが、 犬が誤って食べてしまうと、 たとえ少量でも、 血糖値の低下や嘔吐、 肝不全などを起こすので注意が必要です。

香辛料



犬・猫は、 香辛料に対する耐性が低いので肝臓障害の症状を引き起こします。

鶏の骨

鶏の骨は縦にさけやすく、 鋭利な形状となり、 のどや消化管を傷つけることがあるため、 犬に与えるのは避けましょう。

注意が必要なもの、 与えすぎないほうが良いもの

イカ、 タコなどの魚介類やカニ、 エビなどの甲殻類

生の魚、 イカやタコ、 スルメなどは消化が悪いので、 下痢や嘔吐の原因になったり、 のどに詰まらせてしまうこともあります。 また、 生のイカや貝などの魚介類や、 カニ、 エビなどの甲殻類はビタミン B_1 を分解する酵素を持っているため、 猫に与えると体内のビタミン B_1 が欠乏して後脚の麻痺をおこします。（加熱調理して与えれば問題はありません。）

ホウレン草

シュウ酸が多く含まれているため、シュウ酸カルシウム尿石症の原因になります。 茹でてアク抜きをすることで、 シュウ酸の量を減らすことができます。

生の豆やナッツ類

消化が悪いので、 下痢や嘔吐の原因になります。 豆腐や納豆などの加工食品は消化不良の問題はありませんが、 マグネシウムが多いため、 結石になりやすいという説もあります。

チョコレート

犬にチョコレートを与えると、 テオブロミンが原因で嘔吐、 下痢、 発熱、 けいれんの発作などを起こします。 また、 犬ほどではありませんが猫でも同様の症状をおこすことがあります。 特に、 室内飼育の場合には、 買い置きのチョコレートなどを部屋に放置しないよう注意が必要です。

コーヒーや緑茶、 紅茶など

カフェインが含まれているため、 これらの飲料を与えると、 犬や猫は、 下痢、 嘔吐、 体温不調、 多尿、 尿失禁、 テンカンの発作などをおこすことがあります。

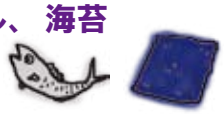
生卵

アビジンという酵素が、 皮膚炎、 成長不良の症状を引き起こすことがあります。（ 加熱調理して与えれば問題はありません。 ）

砂糖

糖質吸収などのため、ビタミン B_1 やカルシウムが余分に使われ、ビタミン B_1 欠乏症やカルシウム不足の症状を引き起こすことがあります。

にぼし、 海苔



犬や猫には、 マグネシウムの過剰が要因となり尿路疾患を引き起こすことがあります。

米飯

カロリーは十分に含まれていますが、ビタミン、ミネラルが少ないため、 猫には、 成長不良、 肥満の症状を引き起こすことがあります。

レバー

猫には、ビタミン A、 D の過剰が要因となり、 食欲不振、 関節炎を引き起こすことがあります。

2

市販のペットフードについて

2-1 市販フードの種類と選び方

●市販のペットフードには、製品の形状や与える目的によってさまざまな種類があります。

目的別の分類

●総合栄養食

犬や猫が必要としている栄養素をすべて含んだフードで、新鮮な水と一緒に与えるだけで健康を維持することができるように、栄養バランスが調整されています。

●間食（「おやつ」または「スナック」）

ペットとのコミュニケーションを取るための手段やごほうびとして、限られた量を与えることを目的としたもので、ジャーキータイプのスナックや魚肉ソーセージなどの練り加工品、ササミ乾燥品、砂肝、乾燥野菜、豚ミミ、蹄（ヒヅメ）などの素材ベース品、ローハイドガムや骨型・歯ブラシ形スナックなどのガム、ビスケットやクッキーなどの菓子類など、様々なものがあります。ペットが欲しがるままに与えていると、栄養が偏ったり、カロリーが過多になって肥満にもつながりますので注意が必要です。1日あたりに必要なカロリーの20%以内に抑えることが大切です。

●その他の目的食

嗜好増進などの目的で与える「副食・おかずタイプ」、特定の栄養成分の調節やカロリーの補給などを目的として与える「栄養補完食」、栄養成分の量や比率などを調節することで、特定の疾病などに対して、いわゆる食事療法として与えることを目的とした「療法食」などがあります。なお、それらはかかりつけの獣医師の指導のもとで与えるべきです。

ペットフードのタイプ別の分類

●ドライタイプ

水分含量が10%程度、またはそれ以下のフードです。重量あたりの栄養価が高いこと、長期保存に適しているなどの利点があります。また、カリカリしているため、歯垢がつきにくくなったり、口臭を抑えることが期待できます。

●ウエットタイプ

水分含量が75%程度のフードで、缶詰、アルミトレイ、レトルトパウチ等の加熱殺菌用の容器に詰められています。風味が良く、食べやすいことから、犬や猫が好む傾向があります。開封しなければ長期間保存できますが、開封後は品質の変化が早いので、注意が必要です。

●セミモイストタイプ・ソフトドライタイプ

セミモイストタイプは水分含量が25～35%程度、ソフトドライタイプは水分が10～30%程度のフードです。

ライフステージ別の区分

犬や猫では、成長段階によって、必要とするエネルギーの量が違います。このため、市販のペットフードの多くは、ライフステージに合わせた栄養設計がされています。各ライフステージに合わせて食餌の管理をしましょう。

●哺乳期

生まれてから30日程度までの期間をいいます。この時期は母乳で成長します。市販のミルクを利用する場合には、犬には犬用、猫には猫用のミルクを与えます。

●離乳期

生後約 20 日から 60 日くらいまでの期間をいいます。犬用や猫用の離乳期用フードも販売されていますが、これらが手に入らない場合には、子犬用（成長期犬用）や子猫用（成長期猫用）フードをお湯やミルクでふやかして与えることも可能です。

●成長期

小型犬では生後約 50 日から 10 ヶ月程度、中型犬では生後約 50 日から1年程度、大型犬では生後約 50 日から1年半程度、超大型犬では生後約 50 日から2年程度、猫では生後約 50 日から1年程度の期間をいいます。

市販製品では、子犬用（成長期犬用）、または、子猫用（成長期猫用）のフードがあります。

●成犬、成猫期

成長期以降の7年間程度の時期をいいます。市販製品では、成犬用、または、成猫用のフードがあります。

●高齢犬、高齢猫期

約7歳から8歳以降の時期をいいます。（老化のスピードには個体差があるため、すべての犬や猫がこの時期から高齢犬、高齢猫というわけではありません。）市販製品では、シニア用のフードがあります。

memo　フードの切り替え方

ある年齢になったからといって、急にその年齢用のフードに切替えるのはあまり良いことではありません。（食べなれていないフードに急に切替えると、吐いてしまったり、下痢をすることもあります。）

状態を見ながら、1 週間くらいかけて新しいフードの割合を徐々に増やしましょう。

犬と人間、猫と人間の年齢のめやす（品種等によってもこの関係は違ってきます）

大型犬	人間
1 歳	12 歳
2 歳	19 歳
3 歳	26 歳
5 歳	40 歳
7 歳	54 歳
10 歳	75 歳
12 歳	89 歳
15 歳	110 歳

小型犬、中型犬および猫	人間
1 歳	15 歳
2 歳	24 歳
3 歳	28 歳
5 歳	36 歳
7 歳	44 歳
10 歳	56 歳
12 歳	64 歳
15 歳	76 歳

2-2 表示の見方

●表示をよく確かめて、 目的に合ったフードを選びましょう。

市販のペットフードのパッケージやラベルには、 そのフードを与えるペットの種類や目的、 使われている原材料、 給与方法、 原産国、 賞味期限など、 フードを選ぶ際に参考となる情報が表示されています。

犬用？　猫用？

犬と猫では必要な栄養バランスが違います。 犬には“ドッグフード”、 猫には“ キャットフード ”を与えましょう。

どのくらいの量が入っているの？

製品の正味量が、「g（グラム）」、「kg（キログラム）」、「mL（ミリリットル）」または「L(リットル)」で書かれています。

どのくらいの量を、どのように与えればいいの？

1日に与える量や回数などが書かれています。 書かれている内容は、 その目的によって、 次のようになります。 なお、 与える回数や量はあくまで「目安」であるため、 体調などを良く観察して、 与える量や回数を調節してください。

●総合栄養食
ペットの成長段階、 体重、 与える回数、 与える量の目安

●間食
栄養に偏りが生じないように与える回数や与えることが出来る限度量など

●その他の目的食
同時に与えなければいけない主食や食材の名称、 給与方法や量、 食事療法のために指定された給与方法や量

栄養成分の量はどのくらい？

フードに含まれている主要な栄養素や水分の量が%（パーセント）で書かれています。
また、多くのフードではカロリー（kcal/kg）も表示されています。

ドッグフード

■成犬用総合栄養食
■内容量：3kg
■与え方：成犬体重1kgあたり1日〇〇gを目安として、 1日の給与量を2回以上に分けて与えてください。
■賞味期限：210814
■成分：粗タンパク18%以上、 粗脂肪5%以上、粗繊維質5%以下、 粗灰分8%以下、 水分12%以下
■原材料：穀物（とうもろこし、小麦）、肉類（ビーフ、チキン）動物性油脂、 野菜類（ほうれん草、にんじん）ミネラル類（P、Ca）、ビタミン類（A、B、C）酸化防止剤（ミックストコフェロール）
■原産国名：日本
■販売者：ABCペットフード株式会社
〒100－0000千代田区神田〇〇町1－2－3
製品に関するお問合せ　03（1234）5678

この商品は、 ペットフード公正取引協議会の定める給与試験の結果、 成犬用の総合栄養食であることが証明されています。

どんな原料を使っているの？

フードに使っている原材料名や添加物名が書かれています。

どの国で作られているの？

フードの最終加工が行われた国名を表示しています。

どういう目的で与えるの？

フードの目的が書かれています。

●総合栄養食
犬や猫が必要としている栄養素をすべて含んだフードで、 新鮮な水と一緒に与えるだけで健康を維持することができるように、 栄養バランスが理想的に調整されています。

●間食（「おやつ」または「スナック」）
犬や猫とのコミュニケーション用や、 ごほうびとして与えることを目的としたものです。 犬や猫が欲しがるままに与えていると、 栄養が偏ったり、 カロリー・オーバーとなって肥満にもつながりますので注意が必要です。

●その他の目的食
嗜好増進等を目的とした「副食・おかずタイプ」では、「一般食（おかずタイプ）」、「一般食（総合栄養食と一緒に与えてください）」、「副食」などと表示されています。 また、「栄養補助食」は特定の栄養成分の調節やカロリーの補給などを目的としたもので、「栄養補完食」、「カロリー補給食」、「サプリメント（動物病院用）」などと表示されています。「療法食」は、 栄養成分の量や比率などを調節することで、 特定の疾病などに対して、 いわゆる食事療法に使用されることを意図したもので、「特別療法食」、「食事療法食」などと表示されています。

また、成長段階は、「幼犬（猫）期、成長期またはグロース」、「成犬（猫）期、 維持期またはメンテナンス」、「高齢犬（猫）期またはシニア」、「妊娠期、 授乳期」、「全成長段階またはオールステージ」などに分かれています。

いつまでに食べさせればいいの？

指定された保存条件で、 未開封のままで、 保管した場合に、栄養価や食味が保証できる期間が「賞味期限」として書かれています。 この場合は、 平成21年8月14日をさしています。
また、 西暦で書かれていることもあります。

どこの会社の製品なの？

会社の名称や住所などの連絡先が書かれています。

※これらの表示はペットフード安全法（愛がん動物用飼料の安全性の確保に関する法律）とペットフードの公正競争規約において定めている事項です。 ペットフード安全法では安全確保や問題発生時の原因究明の観点から、 次の事項について平成 22 年 12 月から製造されるペットフードに義務づけられます。

・名称（商品名をいう。 犬用か猫用であることがわかるように記載）
・原産国名
・賞味期限
・事業者名及び住所（事業者名は製造者、 輸入者又は販売者名を記載）
・原材料名（原則として全ての原材料をすべて記載）

この他の項目は、 ペットフードの表示に関する公正競争規約において定められている表示事項です。

3

手作りフードについて

3-1 利点と注意点

●手づくりフードには利点もありますが、十分な知識が必要です。

手作りフードのメリットは、使う食材や調理方法を飼い主自身が 100%把握できることでしょう。

ただ、犬や猫が必要としているフードの栄養バランスは、私たち人間とは大きく異なっていますし、動物の種類によっては、ビタミンやアミノ酸の必要量も違っているなど、犬あるいは猫の栄養バランスやライフステージによって変化する栄養要求量を満たす最適なフードを作るためには、ペットの栄養に関する十分な知識が必要です。

犬や猫の栄養バランスや必要量、与えてはいけない食材などをよく理解した上で、チャレンジしてみてください。どのようなレシピにするかなど、専門家に相談するのもよいでしょう。

3-2 生肉や生魚を与える場合の注意点

●生肉や生魚も要注意です。

「犬は肉食動物だから生肉を与えています」、「猫は肉食動物だから、生肉や生魚だけを与えています」、という方がいらっしゃいます。

犬は雑食性の動物ですから、生肉だけを長い間与え続けていると、栄養バランスの偏りから、犬が本来必要としていて、食餌から補給しなければいけないビタミン類やミネラル類が不足してしまいます。このため、カルシウムやリンの不足あるいは過剰から骨格の異常がおこったり、食物繊維の不足から下痢をしたり、脂肪の過剰から肥満などを招くことがあります。

また、猫は本来、肉食動物ですが、レバーなどを長期間与え続けると、カルシウム不足による歩行障害が起こったり、ビタミン A の過剰による骨の発育異常などを起こすことが知られています。　生魚の場合にも、マス、タラ、ニシン、ヒラメ、コイなどの魚はビタミン B_1 分解酵素を持っているため、ビタミン B_1 の欠乏症である急激な麻痺などを起こしやすいことが知られています。（これらの魚でも、適切に加熱調理してやれば問題は起こりません。）

このように、犬や猫には肉や魚以外の食材も与えて、栄養の偏りを防ぐことが重要です。

また、肉や魚は、生のまま与えると内部寄生虫が発生したり、細菌性中毒などを起こす可能性があるため、加熱調理したものを与える方がより安全性が高まります。

4

フードの保存方法

4-1 フードの保存方法

●ペットフードの保管状況が悪いと、カビや細菌が繁殖するなどして、犬や猫の体調不良につながることがあります。

ペットフードの取り扱い一般

ペットフードの製品特性に合わせた適切な取扱いを心がけましょう。またフードを与えるときに使用する食器や器具類の衛生面にも気をつけてください。フードの残りかすや水分は、微生物の格好の繁殖場所となります。使い終わった食器や器具類はきれいに洗い、乾燥させ、そして清潔な場所に保管しましょう。食器の後片付けや、食べ残しの片付けがすんだら、最後に石鹸で手を洗い、飼い主にとっても、ペットにとっても、衛生的な環境を保つよう心がけましょう。

ドライフードの保存

未開封のドライフードは、直射日光が当たらない温度変化の少ない場所で保存して、賞味期限内に使い切ることを心がけましょう。（保存条件が悪いと、たとえ賞味期限内でも、品質が悪くなることもあります。）

開封後は、袋の封をしっかりして、直射日光が当たらず、温度や湿度が低い場所で保存しましょう。冷蔵庫での保存は、フードを与えるときの出し入れの際に、フードの表面に結露を生じ、カビ等の発生原因となることがありますので、常温で保存しましょう。開封後は、なるべく早く使い切ることが大切です。犬または猫の大きさにあったサイズの製品を選びましょう。

ドライフードは比較的長期間保存できる利点がありますが、フードボウルに出した場合には、時間とともに香りや食感が失われます。また、犬や猫がいったん口をつけたものは、唾液などがついているため、有害な微生物が発生することもありますので、できるだけ少量ずつ出して、新しいものに取り替えましょう。

缶詰やレトルトフード、手作りフードの保管

未開封の缶詰やレトルトフードは、直射日光が当たらない温度変化の少ない場所で保存して、賞味期限内に使い切ることを心がけましょう。（保存条件が悪いと、たとえ賞味期限内でも、品質が悪くなることもあります。）

開封後に、缶詰やレトルトフード、手作りフードが余ってしまった場合は、別の容器に移しかえて冷蔵庫で保管して、出来るだけその日のうちに使い切ることを心がけましょう。1日以上保管しなければならない場合は、冷凍保存して、その都度、解凍して与える方法も良いでしょう。（なお、家庭用の冷蔵庫で冷凍保管した場合、食味等を損なう場合がありますので注意が必要です。）

また、缶詰やレトルトフード、手作りフードでは、フードボウルに出した後の酸化、腐敗、有害微生物の繁殖などといった品質の変化が、ドライフードに比べて早いため、出しっぱなしは避けましょう。給与時間は 20 分程度を目安にしてください。

5

体調管理について

5-1 痩せすぎ、太りすぎにしないために

●犬や猫を健康に育てるためには、私たちと同じように、痩せすぎ・太りすぎは、よくありません。

大きくなるのがイヤだといって、成長のために多くのカロリーを必要とする子犬や子猫に与える量を制限したり、喜ぶからといってフードを与えすぎたり、おやつは“別腹”などと思ってはいませんか？

給与量の設定方法

カロリーの必要量はライフステージや体重によって異なります。犬や猫が1日に必要なカロリー量は体重によって変化します。また、同じ体重の犬や猫でも、ステージによって必要なカロリー量は変化します。

多くの市販のフードには、カロリー表示とともに、与える量の目安が示されています。しかし、同じ量のご飯を食べても太らない人や太ってしまう人がいるように、犬や猫も個体によって必要なカロリー量が違う場合があります。

目安だけに頼らず、散歩等の運動量、体調などを良く観察して与える量を調節しましょう。

memo　カロリー必要量の計算法

犬の場合には、体重（kg）の0.75乗に各ステージにおける係数（離乳期では274、成長中期では200、成犬期では132）をかけることで計算します（PCをお持ちの方はエクセルで「=係数×体重^0.75」で計算できます）。
猫の場合には、体重（kg）に係数（10週齢では250、20週齢では130、30週齢では100、40週齢や50週齢で活発な個体では80、40週齢や50週齢で不活発な個体では70）をかけることで計算できます。

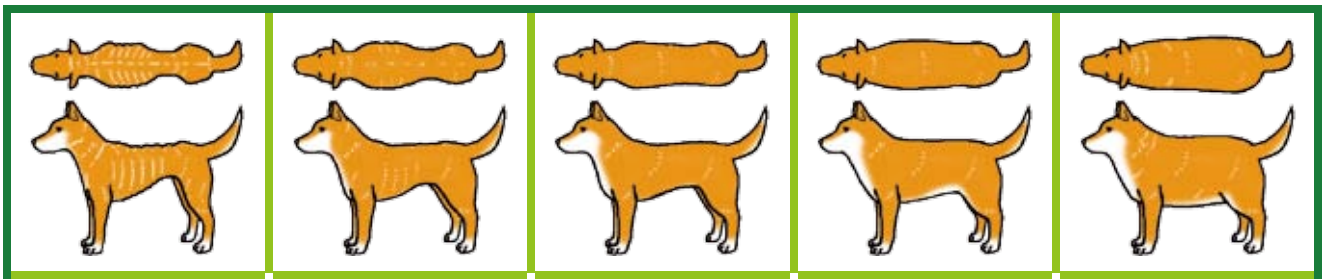
犬のカロリー必要量（kcal/日、参考値）

体重(kg)	離乳期	成犬中期	成犬
1	274		
2	461		
3	625		
4	775		
5	916	669	441
10	1,541	1,125	742
15	2,088	1,524	1,006
20	2,591	1,891	1,248
25	3,063	2,236	1,476
30	3,512	2,564	1,692
35	3,943	2,878	1,899
40	4,358	3,181	2,100
45		3,475	2,293
50		3,761	2,482
55		4,039	2,666
60		4,312	2,846
65		4,578	3,022
70		4,840	3,194
75		5,097	3,364
80		5,350	3,531
85		5,599	3,695
90		5,844	3,857

猫のカロリー必要量（kcal/日、参考値）

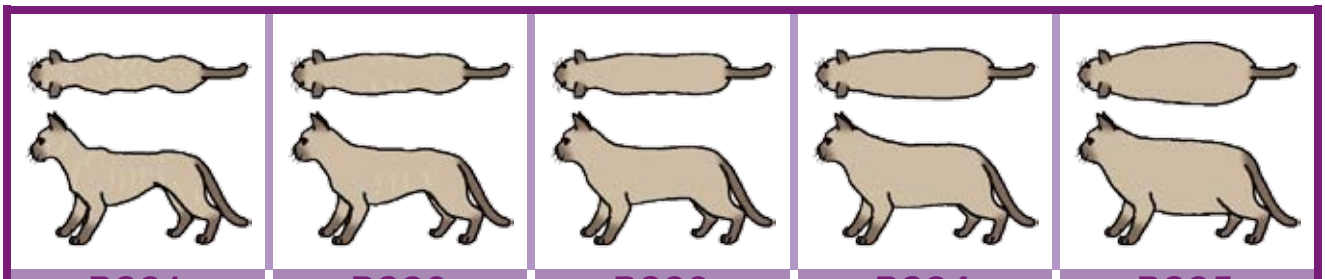
体重(kg)	10週齢	20週齢	30週齢	40週齢	50週齢以上	
					不活発	活発
0.8	200					
0.9	225					
1.0	250					
1.1	275					
1.2	300					
1.3	325	169				
1.4	350	182				
1.5	375	195				
1.6	400	208				
1.7	425	221				
1.8	450	234				
1.9	475	247	190			
2.0	500	260	200			
2.2		286	220			
2.4		312	240			
2.6		338	260	208	182	208
2.8		364	280	224	196	224
3.0		390	300	240	210	240
3.5		455	350	280	245	280
4.0		520	400	320	280	320
4.5		585	450	360	315	360
5.0		650	500	400	350	400

犬のボディコンディションスコア（BCS）と体型



BCS1 痩せ	BCS2 やや痩せ	BCS3 理想的	BCS4 やや肥満	BCS5 肥満
肋骨、 腰椎、骨盤が外から容易に見える。触っても脂肪が分からない。腰のくびれと腹部の吊り上がりが顕著。	肋骨が容易に触る。上から見て腰のくびれは顕著で、腹部の吊り上がりも明瞭。	過剰な脂肪の沈着なしに、肋骨が触れる。上から見て肋骨の後ろに腰のくびれが見られる。横から見て腹部の吊り上がりが見られる。	脂肪の沈着はやや多いが、肋骨は触れる。上から見て腰のくびれは見られるが、顕著ではない。腹部の吊り上がりはやや見られる。	厚い脂肪におおわれて肋骨が容易に触れない。腰椎や尾根部にも脂肪が沈着。腰のくびれはないか、ほとんど見られない。腹部の吊り上がりは見られないか、むしろ垂れ下がっている。

猫のボディコンディションスコア（BCS）と体型



BCS1 痩せ	BCS2 やや痩せ	BCS3 理想的	BCS4 やや肥満	BCS5 肥満
肋骨、 腰椎、骨盤が外から容易に見える。首が細く、上から見て腰が深くくびれている。横から見て腹部の吊り上がりが顕著。脇腹のひだには脂肪がないか、ひだ自体がない。	背骨と肋骨が容易に触る。上から見て腰のくびれは最小。横から見て腹部の吊り上がりはわずか。	肋骨は触れるが、見ることはできない。上から見て肋骨の後ろに腰のくびれがわずかに見られる。横から見て腹部の吊り上がり、脇腹にひだがある。	肋骨の上に脂肪がわずかに沈着するが、肋骨は容易に触れる。横から見て腹部の吊り上がりはやや丸くなり、脇腹は窪んでいる。脇腹のひだは適量の脂肪で垂れ下がり、歩くと揺れるのに気づく。	肋骨や背骨は厚い脂肪におおわれて容易に触れない。横から見て腹部の吊り上がりは丸く、上から見て腰のくびれはほとんど見られない。脇腹のひだが目立ち、歩くと盛んに揺れる。

肥満をふせぐには、 おやつやごほうびはできるだけ控える、 適度な運動をさせるなどの注意が必要です。

おやつやごほうびを与えることは、 犬や猫とのコミュニケーションをとるひとつの手段ですが、 カロリー表示を確かめて、 これらを与えた分だけフードを減らすなどの注意が必要です。

本格的なダイエットは、 獣医師の指導の下で行う必要がありますが、 軽度～中度の肥満の場合には、 与えるフードの量を通常の 30～40%減らして体重の変化をチェックします。 1週間で体重が1～3%減るくらいの割合で徐々に体重を減らしていくのが適当です。 この際、 空腹感を抑えるために、 1日量を3～4回に分けて与えます。（与えるフードの量を 40%以上減らすといった急激なダイエットは体に悪い影響を与える危険があります。）

5-2 日頃の体調管理

●日頃から犬や猫の体調をよく観察することが大事です。

犬や猫は、体調が悪いときでも、言葉であなたに伝えることができません。でも、日常の行動をよく観察しておくことで、病気の前兆を知ることが出来ますし、早目に獣医師に診てもらうことで、病状の悪化を防ぐことができます。また、かかりつけの獣医師の電話番号をメモしておくと安心です。

犬で注意する点は…

- 食欲がない
  （正常な犬でもフードを１～２日間食べない個体もいますが、
  積極的に食べない場合には病気の前兆と考えて良いでしょう。）
- 毛にツヤがない、ゴワゴワしている
- 糞の中に粘液や血が混じっている
- いつもより糞が臭い
- おしっこに血が混じっている
- 数日間にわたって嘔吐をくりかえす
- お腹が膨れていて、触ると痛がる
- 咳がひどい
- 鼻汁や涙を流す
- 熱がある（犬の正常体温は 38.0 ～ 39.0℃です）
- 周りの状況に無関心になった
- 暗がりに隠れて出てこない

猫で注意する点は…

- 食欲がない
- 目に活力がない
- 毛が乾燥し、ゴワゴワしている
- 休みなく鳴いている
- 体に触られるのを嫌がる
- 水を飲む量がいつもより異常に多い（少ない）
- おしっこの回数がいつもより多い
- おしっこをチビチビもらす
- おしっこに血が混じっている
- 下痢をくりかえす
- 熱がある（猫の正常体温は 38.0 ～ 39.0℃です）
- １日以上、１ヶ所に隠れて出てこない
- 毛玉の排泄がひどい

5-3 こんなことにも気をつけましょう

観葉植物による中毒

食材ではありませんが、 室内に置いてある観葉植物を犬や猫が誤って食べたことで中毒を起こすことがあります。 ディヘンバキアやセローム（サトイモ科）、アイビー（セイヨウキヅタ、ウコギ科）、イチイ（イチイ科）、クレマチス（テッセン、キンポウゲ科）、スズラン（ユリ科）、クロッカス（アヤメ科）、シクラメン（サクラソウ科） など、 犬や猫に潜在的な危険性を持つ植物は多いので注意が必要です。

セローム　アイビー　クレマチス　スズラン　クロッカス　シクラメン

家庭用の洗剤等

家庭にある洗浄剤、 殺虫剤等についても適切に管理し、 犬や猫の口に入らないよう注意することが大切です。

歯のケア

犬では生まれてから約1月で 28 本の乳歯がはえそろい、 3～7月で 42 本の永久歯にはえかわります。 また、 猫では生まれてから約1月半で 26 本の乳歯がはえそろい、 4～8月で 30 本の永久歯に生えかわります。

犬や猫が健全な歯を失うと、 健康状態にも悪い影響を与えます。 健全な歯を保つには、ドライフードなどを与えるのも効果的ですが、 できるだけ、 子犬や子猫の時から定期的な歯磨き（犬ではできれば毎日、 猫では週1～2回） の習慣をつけましょう。 歯磨きは、 子供用の歯ブラシや、 やわらかい布きれなどを使っておこないますが、 最初は、獣医師の先生から正しい歯磨きの方法を指導してもらうと良いでしょう。また、 定期的に獣医師の診察を受け、 歯垢や歯石をとってもらうことも重要です。

飲み水にも注意を払いましょう

水は犬や猫の体の 60 ～ 80%を占める重要な要素です。

一般的に、 健康な成犬や成猫が快適な温度条件下で暮らしている時の飲水量は、 フードの乾物量（水分を除いた重量）の約 2.5 倍と言われています。 実際には食べているフードの水分含量（例えば、 犬用のドライフードの水分含量はおおよそ 10%、 ウエットフードの水分含量はおおよそ 75%です）、 気温、 運動量などによっても大きく左右されますので、 いつでも新鮮な水が飲めるようにしてください。

なお、 人間用のミネラルウォーターは、 マグネシウムなどのミネラルが多く含まれているものもあるため、 犬や猫に与える場合は注意が必要です。

犬と猫が1日に必要な水分量（mL、 フードから摂る水分を含む）

	体重(kg)														
	2	3	4	5	6	7	8	9	10	15	20	25	30	35	40
犬	190	260	320	370	430	480	530	580	630	850	1060	1250	1440	1610	1780
猫	140	190	240	280	320	360	400	440	470						

6

Q & A

Q 1

市販のフードの中にプレミアムと表示した製品がありますが、 通常のフードとどこがちがうのでしょうか？

A

プレミアム・フードの定義は必ずしも決まっているものではありませんが、 一般的には、 消化性やアミノ酸のバランスが優れた原料を使用している、尿路結石や毛玉の抑制、関節の保護、老化の防止などに有効と思われる機能性を持つ原料を使用しているなど、 通常のフードと差別化を図った製品群を指しています。

Q 2

犬と猫を一緒に飼育しているのですが、 犬が猫用（猫が犬用）のフードを食べてしまいます。 犬が猫用のフードを、猫が犬用のフードを食べてしまっても大丈夫でしょうか？ また、 これを防ぐ方法はありますか？

A

元来、 犬と猫は異なった動物であり、 必要とする栄養素は違います。 たまたま食べてしまう分には問題が生じることはありませんが、 長期的には、 特定の栄養素について過剰、 不足が生じて健康上の問題を引き起こす可能性があります。 頻繁に異種のフードを食べてしまう場合は、 時間や場所を分けて与え、 異種のフードを食べさせないようにする必要があります。

Q 3

ライフステージごとに栄養の必要量が異なるため、 ライフステージにあったフードを食べさせなければいけないと教えられましたが、 ライフステージが異なる犬あるいは猫を数頭飼育している場合に、 どのように管理すればよいでしょうか？

A

一般的に幼犬・幼猫は成犬・成猫に比べて体重あたりの食餌エネルギーを何倍も必要とします。 したがって、 成犬用・成猫用のフードを幼犬・幼猫に与えると栄養不足になりますし、反対は、 エネルギー過剰になって肥満になります。 このため、 ライフステージごとのフードを食べさせることは、 とても重要です。 複数頭を飼育する場合、 例えば、 子犬・子猫はケージの中でフードを食べさせる。 食餌の時間が終わったら、 すぐに片付ける。 食餌時間をずらす。 食餌を与える場所をそれぞれ変えるなどの工夫が考えられます。

Q4 獣医さんから療法食の使用を薦められましたが、なかなか食べてくれません。食べてもらうために、なにか良い方法はないでしょうか？

A 急にフードを切替えると、犬や猫は慣れないフードに戸惑い食べないことがあります。また、嘔吐・下痢などの原因になる可能性がありますので、これまでのフードに少しずつ療法食を混ぜ、徐々にその量を増やしながら、1週間くらいかけて根気良く切替を行ってください。どうしても食べない場合は獣医師にご相談ください。

Q5 複数の犬あるいは猫を飼育しているのですが、1頭だけ療法食を与えなければいけません。どのような管理が必要でしょうか？

A 1頭だけを違う場所で給餌するなど、食餌の時間や場所を分けて優先的に与えるとよいでしょう。他の犬や猫が食餌をしている時間は、別の場所に移動させるなど他の犬や猫が食べている場所に近づけないようにコントロールしてください。

Q6 1種類のフードを与え続けているとすぐに飽きてしまい、仕方がないので、ジャーキーなどに頼ってしまいがちです。フードを飽きないで食べてもらう方法はないでしょうか？

A まず、同じフードに飽きる「原因」を考える必要があります。
塩分、脂肪含有量が高い味の強いものを覚えると、さらに味の強いフードを求めていく可能性があります。そのようなフードを長期に与えると栄養上、健康上の問題をおこしかねません。
「フードに飽きる」背景には、家族の誰かが人の食事を与えていたり、味の強いおやつを与えていたりすることが原因になっているケースがあります。フードを食べなくてもおやつなどで栄養をとらせようとせず、次の食餌時間まで放っておくのも一つの方法です。
また、フードに飽き易い犬・猫の場合は、日頃から数種類のフードをローテーションさせてはいかがでしょうか。その場合、同じ栄養組成の製品の中で味が異なるものに変えてみたり、ドライフード、ウエットフードを試したりするのが良いでしょう。同じフードに犬または猫用のトッピングやふりかけを混ぜて与えてみるのも一つの方法です。

Q７ 離乳食から普通食への切替えや成犬（猫）用からシニア用フードへの切替えのタイミングや、 切替えの方法を教えてください。

A

離乳食から普通食への切替え時期と方法

犬又は猫の種類や個体差がありますが、生後約 50 ～ 60 日位から普通食への切り替えを行ってください。ドライフードをふやかして与えている場合は、 歯が生え揃ってきたらふやかす時間を少しずつ短くして芯がのこる程度のものから徐々に慣らしていき、 生後 50 日以降には少しずつ固形へ切り替えましょう。

シニア用フードへの切替え時期と方法

従来の食餌に少しずつ混ぜながら移行することをお勧めします。 犬は犬種によって切り替える時期が違います。 シニアに入る時期は、 大型犬は６－７才、 小型犬は８－１０才くらいからと違いがあります。 猫は７－１０才くらいです。
特に健康に留意しスムーズに切り替えを行えるよう、 慣れた食餌に少しずつ混ぜて、 １～２週間かけて徐々に切り替える事をお勧めします。

Q８ 大型犬を飼育しているのですが、ドライフードと一緒にカルシウム剤をサプリメントとして与えるとよいと聞きましたが、 本当ですか？ また、 犬や猫用に、ビタミンやミネラルなど様々なサプリメントが市販されていますが、 それらの使用方法や適切な選び方を教えてください。

A

カルシウムについては不足しても過剰でも骨の代謝に影響します。 与えているフードに適切な量のカルシウムが含まれている場合は、 サプリメントの給与によって過剰になり、 一部の犬種では股異形成や骨軟骨症などの発育期の整形外科疾患にもつながります。
特に、 成長期の大型犬がカルシウムを過剰摂取すると、 骨格異常を起こすこともあります。
基本的に、必要量のカルシウムは総合栄養食（大型犬用）を与えていれば、足りるようになっています。 なお、 カルシウムが多めに含まれる小型犬用のフードを大型犬には与えないよう気をつけてください。
また、 ビタミンやミネラルについても、 犬又は猫が健康で何の問題もなければ、 サプリメントは特に必要なく、 バランスのとれたフードを与えることで十分と思われます。 必要な場合は、それぞれの犬や猫が本当に補う必要のある栄養成分を獣医師に相談の上で、 サプリメント等を与えることをお勧めします。

参考資料

●阿部又信（日本小動物獣医師会動物看護師委員会監修）. 2008. 動物看護のための小動物栄養学 改訂 3 版 . ファームプレス . 東京

●Burkholder WJ & Bauer JE. 1998. Foods and techniques for managing obesity in companion animals. Journal American Veterinary Medicine Association. Mar 1; 212 (5) 658-662

●Bailoni L & Cerchiaro I. 2005. The role of feeding in the maintenance of well-being and health of geriatric dogs. Veterinary Research Community, Aug 29 Suppl 2. 54 – 55

●Department for Environment Food and Rural Affairs. 2008. Consultation on code of practice for the welfare of cats

●Department for Environment Food and Rural Affairs. 2008. Consultation on code of practice for the welfare of dogs

●Hand Thatcher Remillard Roudebusg（本好茂一監修）. 2001. 小動物の臨床栄養学 第 4 版 . マーク・モーリス研究所日本事務所 . 東京

●Morris JG, Rogers QR. 1994. Assessment of the nutritional adequacy of pet foods through the life cycle. Journal of Nutrition. 124 (12 Suppl) 2520S-2534S

●日本小動物獣医師会ホームページ . ペットワールド ペットの基礎知識 . http://www.jsava.com/petwoeld/index.html

●ペットフード工業会 . 2005. ペットフードハンドブック

●ペットフード工業会 . 2008. 平成 19 年度ペットフード産業実態調査

●ペットフード公正取引協議会ホームページ . ペットフード公正取引協議会の定める「ペットフードの表示に関する公正競争規約・施行規則」の解説 http://www.pffta.org/hyouji/hyoji.html

●Remilland RL. 2008. Homemade diets; attributes, pitfalls, and a call for action. Top Companion Animal Medicine. Aug;23 (3) 137-142

飼い主のためのペットフード・ガイドライン
～犬・猫の健康を守るために～
発　行：環境省自然環境局総務課動物愛護管理室
Ｈ　Ｐ：http://www.env.go.jp/nature/doubutsu/aigo/
作　成：（社）日本科学飼料協会
発行日：平成 21 年 10 月（第二版）
編集・デザイン：つしまみかこ